溝上慎一の教育論（動画チャンネル） No433

（審議まとめへのコメント）

次期改訂『審議まとめ』を体育の観点からコメント

佐藤豊先生（桐蔭横浜大学スポーツ科学部教授/体育ほかワーキンググループ委員）

溝上　慎一　　Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

https://smizok.com/
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

＊詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。
※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

（ご紹介）



佐藤 豊

さとう　ゆたか

桐蔭横浜大学
スポーツ科学部 教授

筑波大学体育専門学群卒業
横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了

高等学校保健体育科教員として勤務の後、
神奈川県教育委員会指導主事、文部科学省教科
調査官(体育担当)、鹿屋体育大学教授を経て
2016年に桐蔭横浜大学へ

体育の次期学習指導要領 審議まとめ

体育の観点からコメント



佐藤 豊 教授

桐蔭横浜大学スポーツ科学部教授
（もと文部科学省教科調査官［体育］）

「学びに向かう力・人間性等」に
位置付けていた指導事項は…

公正　協力　責任
参画　共生　健康・安全

指導と評価の一体化を図るため
「知識・技能」を中心に再整理

マット運動の単元で考える
統合的な理解・総合的な発揮とはどのようなものか？



体育以外の教育関係者にも役立つ
概念水準を理解する練習問題！

それではご覧ください

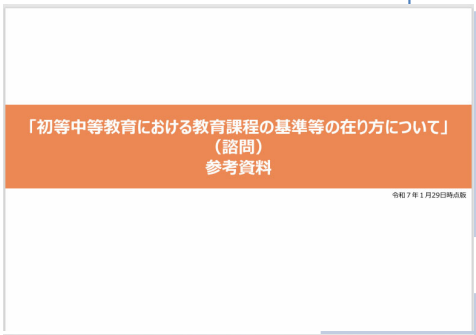
溝上チャンネル
中央教育審議会答申等から

桐蔭横浜大学スポーツ科学部
教授　佐藤　豊

体育・保健体育、健康、安全WG　委員

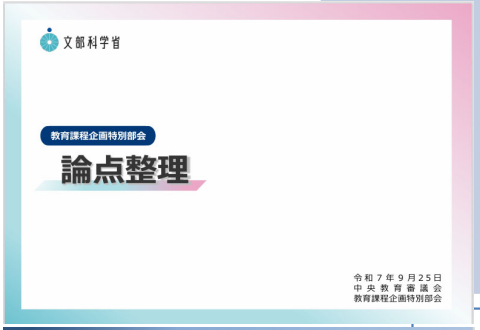


トピックス



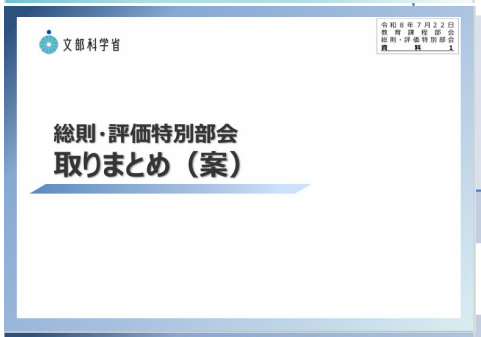
1. 中央教育審議会諮問
令和7年1月29日時点版

・日本型ウェルビーイングの実現に向けた体育・保健体育の意義



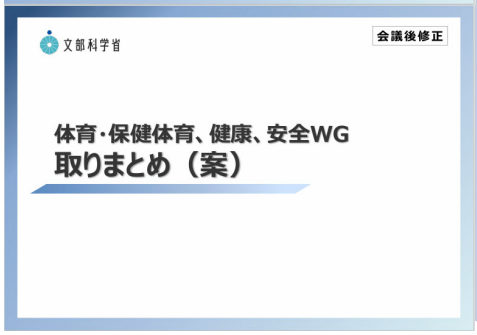
2. 論点整理　令和7年9月25日

・基盤となる考え方、評価の観点の変更



3. 総則・評価部会　とりまとめ
令和8年7月22日

・情報、調整時数時間の導入



4. 体育・保健体育、健康、安全WGとりまとめ(案)会議後修正
令和8年8月4日

・444構造化　・態度の知識、技能への移動

ウェルビーイングの向上について（第４期教育振興基本計画参考資料）

ウェルビーイングとは

○ 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

○ 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

なぜウェルビーイングが求められるのか

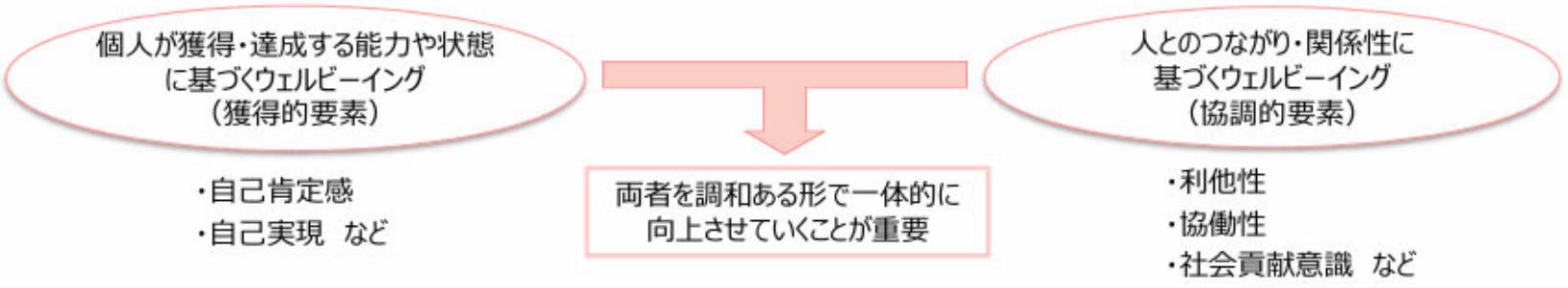
○ 経済先進諸国において、ＧＤＰに代表される経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方が重視されてきている

○ ＯＥＣＤ（ は
「私たちが望

日本型ウェルビーイングの実現

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められる。



⇒日本の特徴・良さを生かし、「調和と協調（Balance and Harmony）」に基づくウェルビーイングを日本発で国際発信

【例：インドネシアG20教育大臣会合・議長サマリー】

（略）to work towards the achievement of balanced and harmonious oriented well-being and universal quality education by 2030.

17

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（諮問）参考資料

第1回「体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループ」

桐蔭横浜大学　佐藤豊

<改訂に向けた基本的な考え方>

①「主体的・対話的で深い学び」の実装
②多様性の包摂
③実現可能性の確保

自らの人生を舵取りする力（興味・関心）
民主的持続可能な社会での創り手

個人と社会のウェルビーイングの実現

体育科・保健体育科は、学校教育として何を保証、貢献するのか。

①　健康で生き生きとした人生を送る基盤づくり・・様々なスキルの育成
②　運動やスポーツとの多様な関わり方を通した「生きがい、自己実現」としての豊かなスポーツとのつながり(文化としてスポーツを享受できる力)
=ライフワークバランスをとり、人と関わり自分らしくいきいきと紡ぐ人生

〇見方・考え方への柱(体育)

運動やスポーツが有する楽しさ、多様な価値や意義(内在的価値)と利益(外在的価値)がある

〇中核となる概念検討の柱

知・徳・体(教育基本法)

心と体は相関している

非認知能力の重要性
公正、協力、責任、参画、共生　ETC

〇ワーキングの視点

①教育の共通性と教科の独自の学びのバランス
②保健と体育の往還
③現行要領の分析的省察(内容の体系化及び各校種の成果と課題)

体育科(運動領域)・保健体育科(体育分野)の内容検討経過から見た成果と課題

体育で育成すべき内容とゴールイメージの共有

12年間の体系化(4・4・4)による校種の接続

・内容の明確化(評価規準の参考としての例示を示す)

知識・技能、思考・判断・表現、態度の評価規準

・体ほぐし運動の目的の理解、動きの理解(小)、武道・ダンス、器械運動(中)

知識の構造化(概念、具体、方法)

指導の重点化(カリマネ)、資質・能力の育成方法と評価

・態度指導の充実、体ほぐし運動の目的理解

改定時の検討の視点

①「シーケンス(縦)」の視点

バックワード・デザインでの検討

生涯にわたる多様で豊かなスポーツライフ(ゴールはどこか?)

・学校(幼～大学)、卒業後のライフステージ、スタイルからみた初等中等教育(12年間)の系統性と期間目標(444)

・2年間ごとの知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の重点とバランス

②「スコープ(横)」の視点

・カリキュラム・マネジメント・・授業、保体連携、教化外(教科で指導すること)

・発達の段階に応じた指導目標、内容の重点化

・校種ごとの独自性と特徴

小) 全教科の指導・・体育学習コーディネーター(専科制の検討)
体育分野を含む電子教科書、教材等の充実の検討)

中) 中1ギャップ、科学的理解の概念化、部活動地域展開による授業の重要度

高)共通性と多様性・・卒業時に身に着けたい資質・能力(技能中心指導でよいか)

・指導の接続、全ての子供に対する配慮、ICT活用(センシング等の安全対策を含む)

・領域の独自性(各領域を学ぶ意味)と統合(資質・能力の育成)のイメージの共有

指導の基準と実際の往還による検討(演繹と帰納)

・答申を踏まえること
・学習状況調査等の公表された成果と課題を踏まえること

総則・評価特別部会答申を受けて

①　技能の育成を中核とした教科のゴールは、知識の獲得ではなく、身体や所作を通して発揮される能力の育成を目指してきたこと

技能「～ができる」態度「～しようとしている」へのこだわり

②　学びに向かう力・人間性等の育成の衰退への危惧と思考・判断・表現に加点されること

「体育の具体的指導内容を示していること」

公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全

教科独自の学びに向かう力、人間性等の指導内容はないのでしょうか?　知育偏重への回帰の不安

フィジカルリテラシー

フィジカルリテラシーとは、生涯にわたって身体活動を楽しみ、健康で充実した生活を送るために必要な身体的・心理的・認知的・社会的能力の総合的な概念です。

定義と背景

フィジカルリテラシーは、個人が自分の身体を効果的に使い、運動やスポーツを継続的に楽しむための能力や自信、動機、知識・理解を含む概念です（Whitehead, 2010） 笹川スポーツ財団 +1 。日本では第3期スポーツ基本計画において、「生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質や能力」として位置づけられています japan-sports.or.jp +1 。

構成要素

フィジカルリテラシーは、以下の4つの主要領域で構成されます japan-sports.or.jp +3 ：

1. **身体的能力（Physical）**：運動技能、体力、バランスや効率的な動作能力
2. **心理・情動的能力（Affective）**：運動に対する自信や動機、自己肯定感
3. **認知的能力（Cognitive）**：身体活動に関する知識や理解、状況判断能力
4. **社会的能力（Social）**：他者との関わりや協調性、コミュニケーション能力
   これらの領域がバランスよく発達することで、個人は運動を楽しみながら健康を維持し、社会的にも適応力を高めることができます。

生きがいにつながる深い学び
学習方略

深く学ぶ楽しさや喜びを実感する

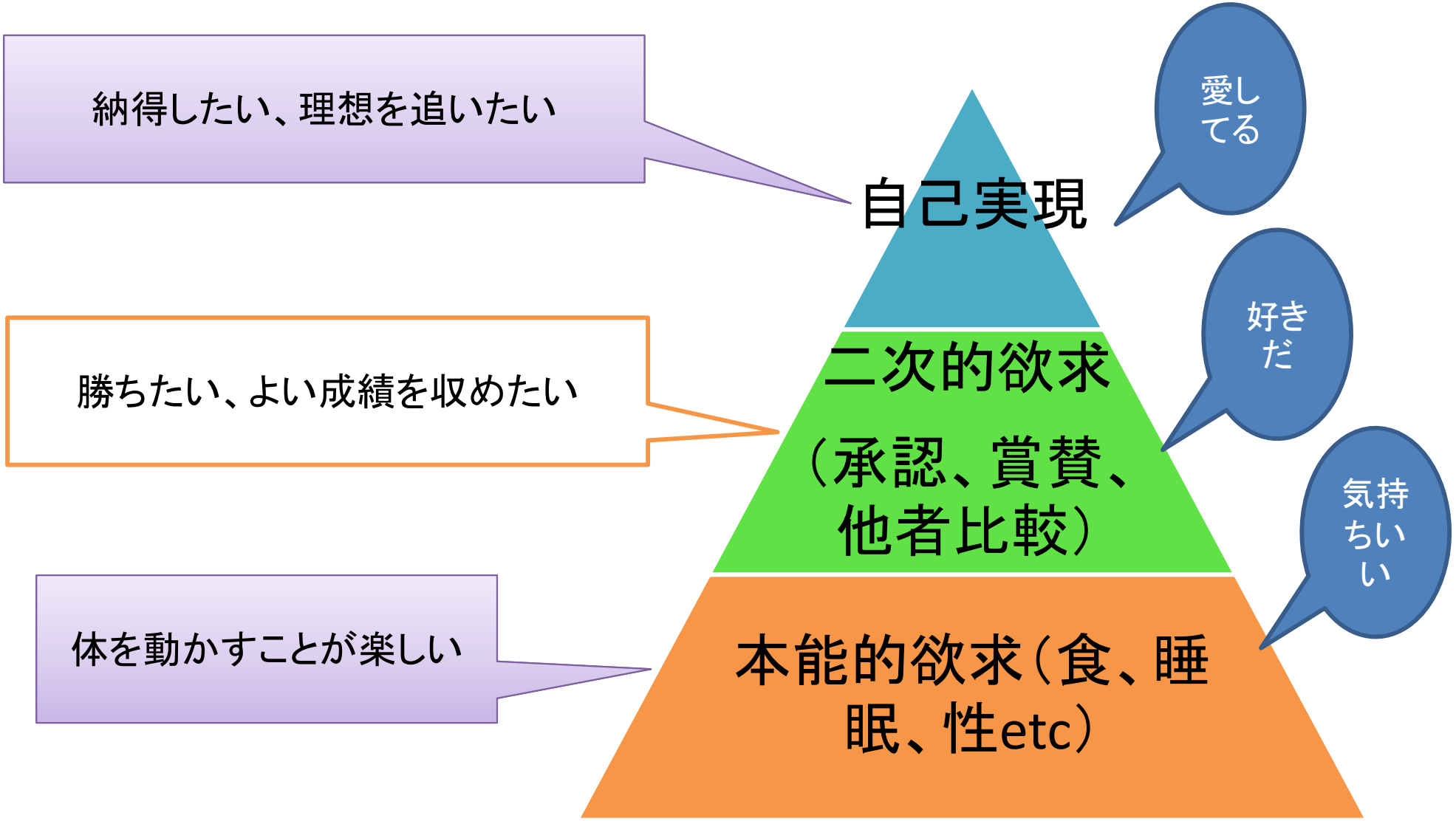
楽しさに触れる（小学校）

楽しさや喜びを味わう（中学校）

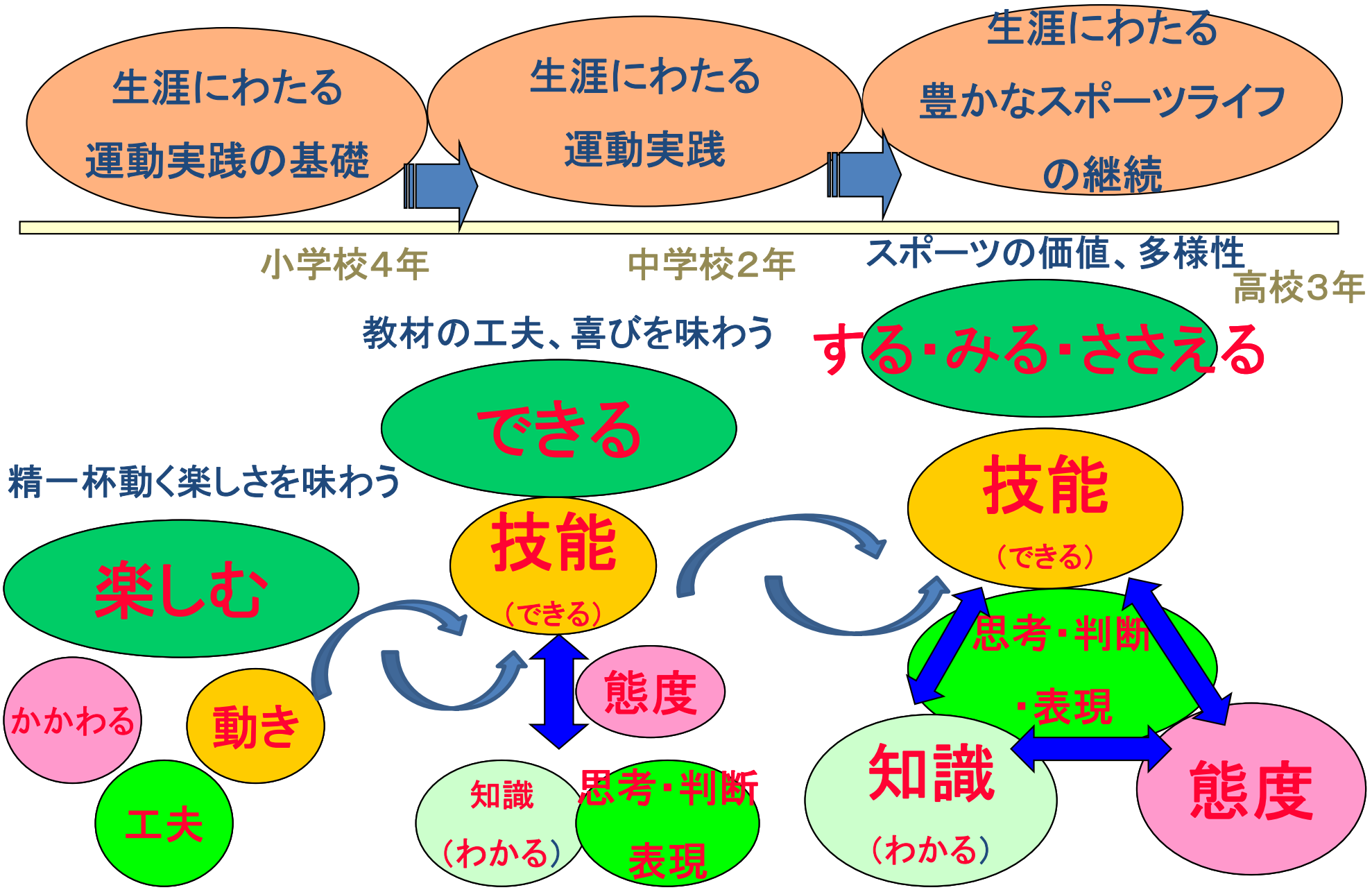
楽しさや喜びを多様に味わう（高等学校）

表３ 主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な手立て → 手立てのグループ化

楽しさを深く味わうために



学習の重点の変化の検討(育成モデルのスイッチの必要性)



2. 「深い学び」を実現するための分かりやすい学習指導要領に向けた工夫とは？

高次の資質・能力をもとにした一層の構造化・ 表形式化・デジタル化

子供たちに育む資質・能力が分かりやすく、日々の授業づくりの際に教師一人一人が使いやすい学習指導要領とするため、「構造化・表形式化・デジタル化」を一体的に進め、「深い学び」を授業で具現化しやすくする。

＼生きて働く／
知識及び技能
他の学習や生活の場面でも活用できる

＼未知の状況にも対応できる／
思考力、判断力、表現力等
知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい

高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿



(例)関数を使えば未知の状況を予測できる

高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿



(例)現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の「一体的育成」の可視化

社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要

資質・能力の「深まり」の可視化

個別の知識や技能

知識① 知識② 知識③ 知識④



(例)比例・反比例の理解 / 1次方程式の解き方 等

資質・能力の「深まり」の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等



(例)二つの数量の変化・対応関係を見つけて式やグラフを用いて考察する 等

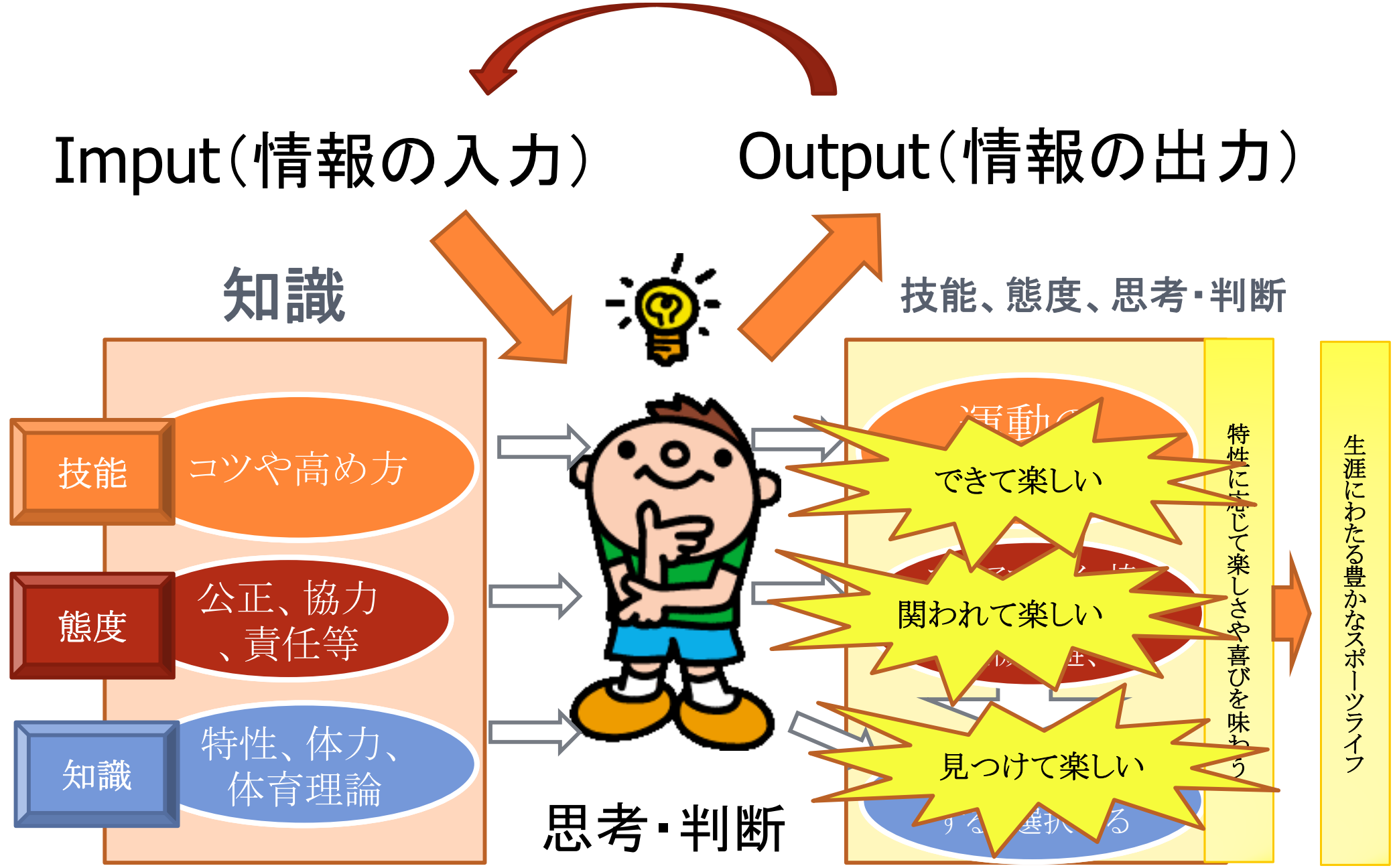
※論点整理における「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」について、総則・評価特別部会における議論を踏まえ、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な理解」（総称して「高次の資質・能力」）に更新して記載
※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

現行学習指導要領のもとで取り組んできたこと

教科によって得られる見方・考え方
概念知を探るヒント

学習したことの意義や価値を実感できるようにする(ア)

体育学習の「わかる」と「できる」 2015,SATO



令和７年１０月２７日
体育・保健体育、健康、安全WG
資　料　４　－　１

体育における内容及び学習評価対応イメージ案(佐藤)

個人と社会のウェルビーイングの実現

学びに向かう力・人間性等

運動・健康への愛好的・価値的態度

カリキュラムマネジメント
(成果の統合)

運動領域　単元レベル

知識

態度の知識
(守る)公正、責任、健康・安全
(創る)協力、参画、共生

技能

単元で育成可能な態度

思考・判断・表現
(即時、論理的)

技術的知識
(クローズ系、オープン系)
(構造化)

単元で育成可能な運動の技能

する、みる、支える、知るための知識

理論

単元の積み重ねと内容の深化

非認知能力の汎用化

課題解決能力の汎用化

身体表現力の汎用化

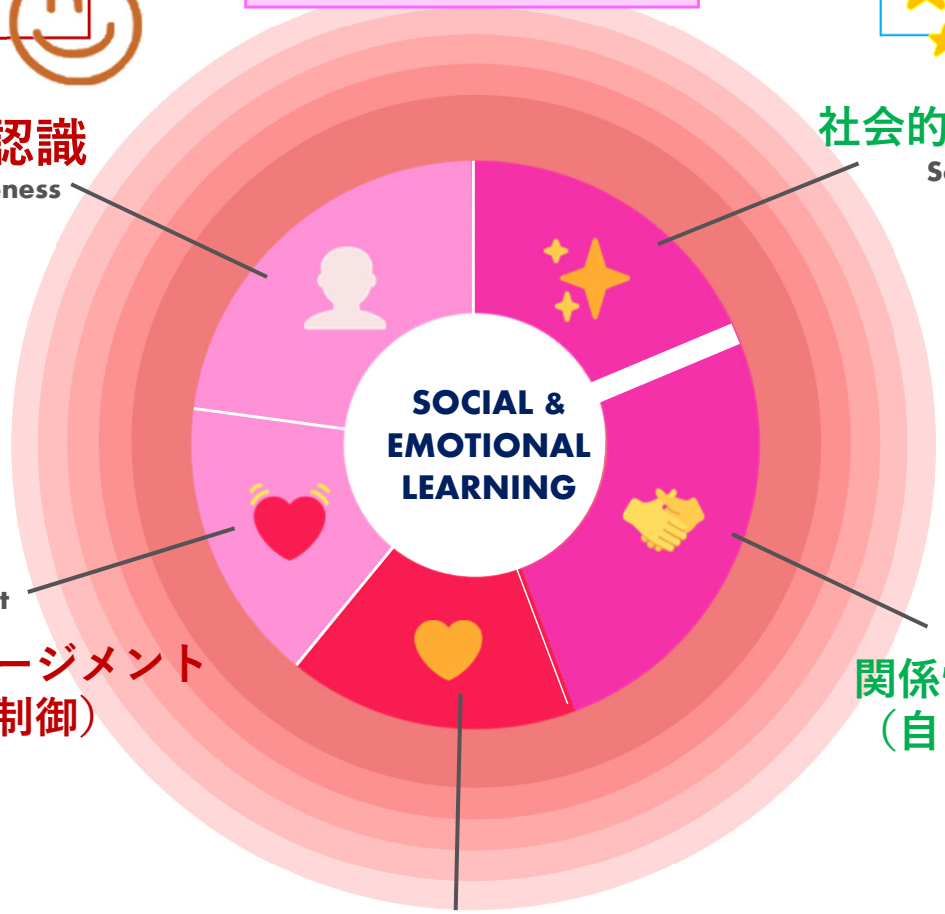
多様で豊かなスポーツライフ

JADAクリーンスポーツ教育における非認知能力の説明資料改編

エモーショナルスキル
Emotional Skill

非認知能力
Non-Cognitive Domain

ソーシャルスキル
Social Skill



自己認識
Self-Awareness

- 自身の感情の把握
- 自身の先入観への正確な気付き
- 強み・弱みの自己認識
- 自信
- 自己効力感（自分が達成できるという信念

≪価値観 / 信条≫
道徳心、倫理観、公正、安全

社会的な認識
Social-Awareness

- 他者の立場に立って考えられる
- 共感
- 多様性への理解・尊重
- 他者へのリスペクト

≪社会性≫
協力・協働、共生、責任、参画

セルフマネージメント（自己制御）
Self-Management

- ストレスとうまく付き合う
- 欲求をコントロール
- 自身を動機付けられる
- 自制力、自己鍛錬
- 自身の動機付け
- 目標設定

関係性スキル（自己・他者との関係性において）
Relationship Skill

- コミュニケーション
- チームワーク
- 社会との関わり
- 関係性の構築

責任ある意思決定
Responsible Decision-Making

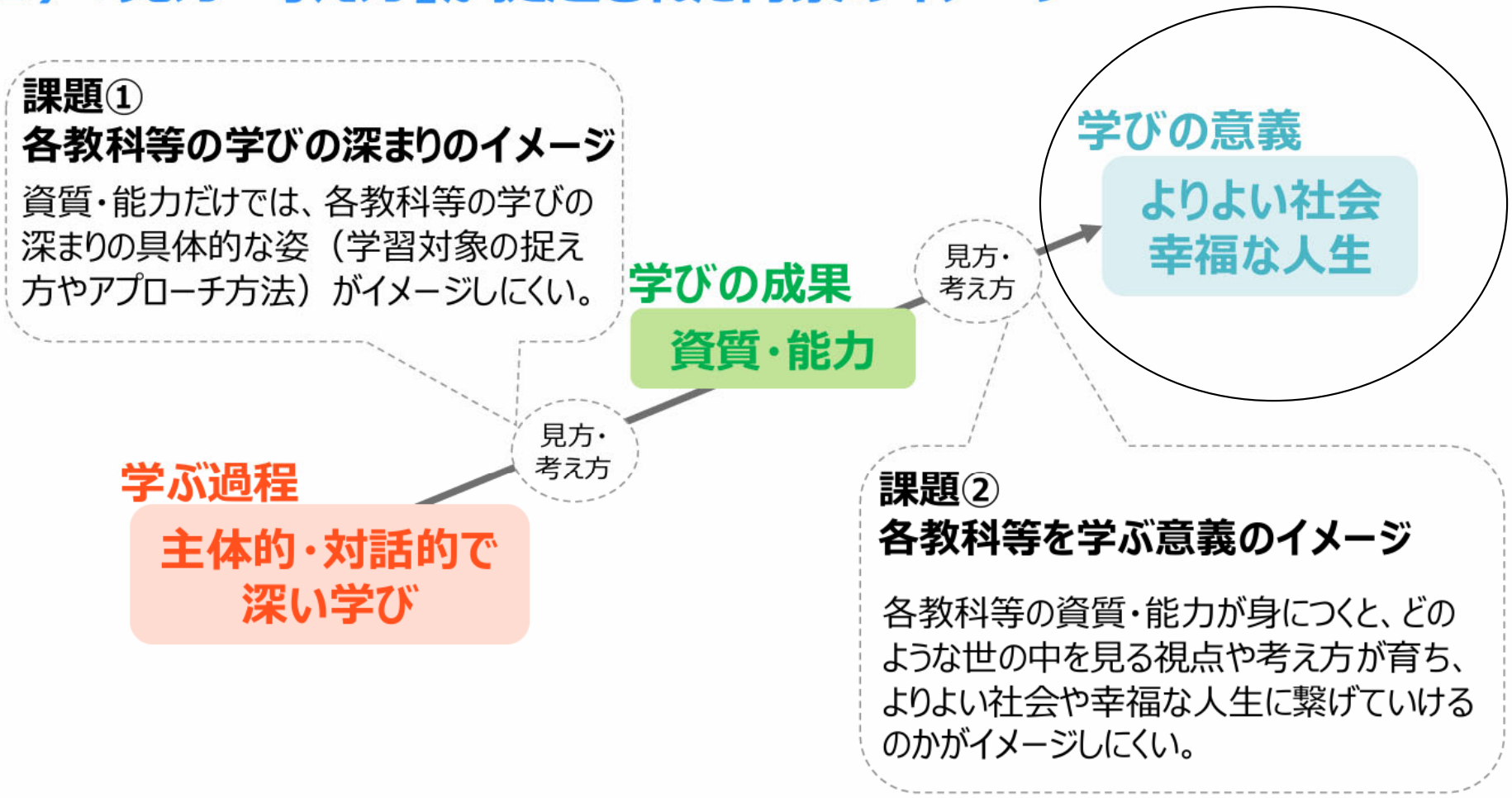
- 問題・課題の認識
- 状況分析
- 問題解決
- 評価
- 省察
- 倫理的責任

OECD (2019) Learning Compass 2030
UNESCO (2015) Quality Physical Education
CASEL (2017) Collaborative for Academic, Social, And Emotional Learning

社会を守る力

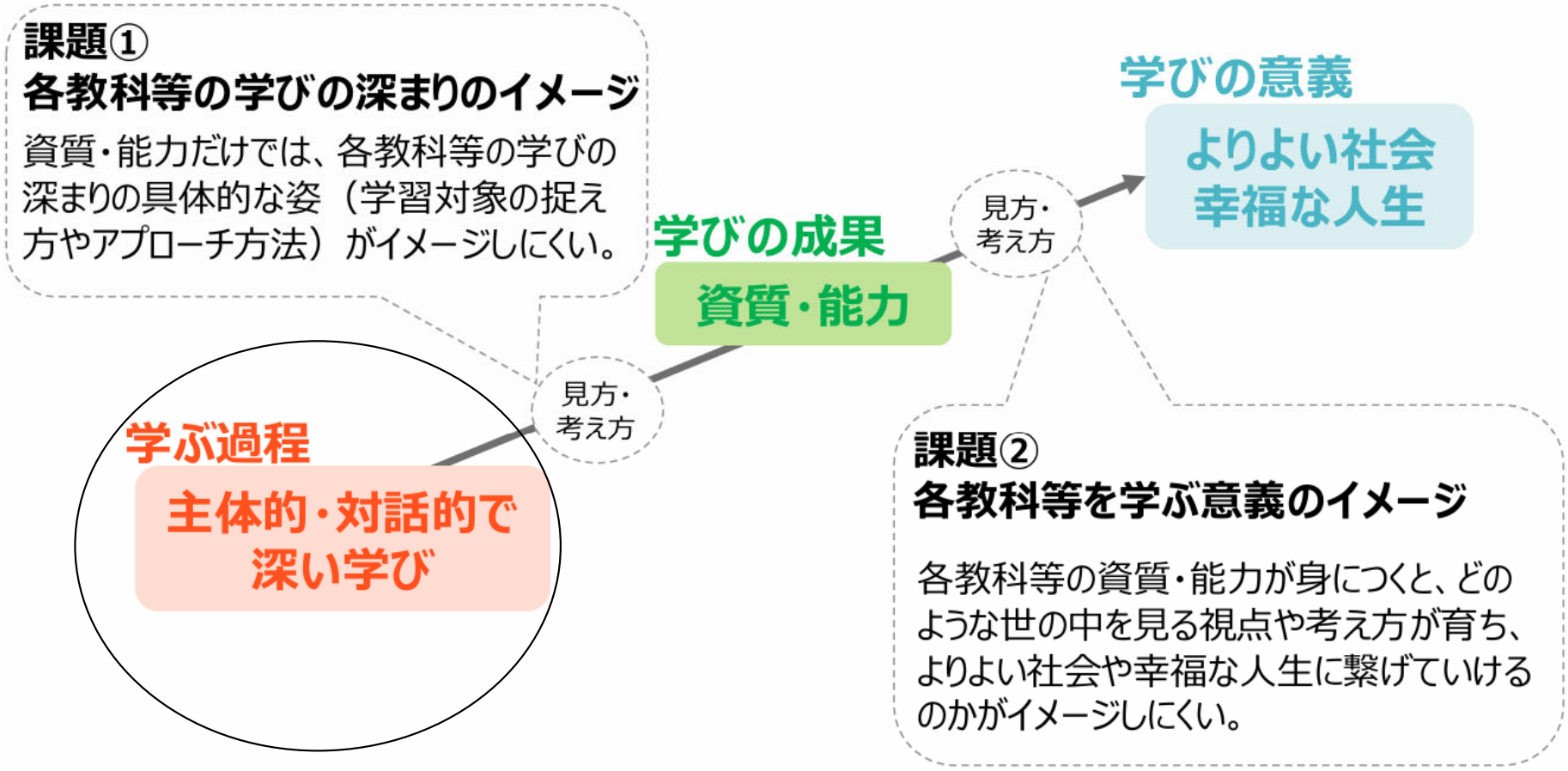
社会を創る力

（１）「見方・考え方」が提起された背景のイメージ



(From OECD)

（１）「見方・考え方」が提起された背景のイメージ



(From OECD)

器械運動系授業を通して学ばせたい汎用的能力

Y.SATO

卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期

体格の変化と技の選択

演技構成し発表する楽しさ

高2.3

いずれかを選択

中3高1

構成

マット運動

演技構成

変化　発展

滑らか　安定

鉄棒運動

演技構成

変化　発展

滑らか　安定

跳び箱運動

変化　発展

滑らか　安定

平均台運動

演技構成

変化　発展

滑らか　安定

多くの領域の学習を経験する時期

自己に適した選択

美しさ・難易度

中1.2

器械運動

組合せ

背中を順々につけて回る

回転力を高める

支える・突き放す

反転するタイミング

バランスをとる

復元する動き

滑らか　変化　発展　組み合わせ

鉄棒運動

跳び箱運動

平均台運動

高学年

器械運動

発展

発展　組み合わせ　発展　発展

回転系　巧技系　支持系　切り返し系　回転系

マット運動　鉄棒運動　跳び箱運動

各種の運動の基礎を培う時期

中学年

基本

回転系・巧技系　平均立ち群　支持系　切り返し系　回転系

マット運動　鉄棒運動　跳び箱運動

器械・器具を使っての運動

低学年

類似

登る、渡る、跳び下りる

ジャングルジム、雲梯、登り棒、肋木、平均台

転がる、反らす

ゆりかご、前転がりなど

揺れる、回る

ふとん干しなど

踏み切る、支持する

またぎ乗りなど

固定施設を使った運動遊び

マットを使った運動遊び

鉄棒を使った運動遊び

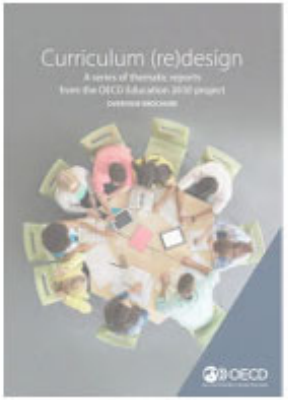
跳び箱を使った運動遊び

器械・器具を使っての運動遊び

「中核的概念（ビッグアイデア）」を通じた教育課程の構造化は世界

資料１－３

◆ 近年カリキュラムの全面改訂を行った国・地域において、しばしば各教科の学習の中核となる概念（いわゆる「ビッグアイデア」）の下で内容の整理が行われている。OECDが2020年に公表した報告書「カリキュラムの（再）デザイン」では、「12のカリキュラムのデザイン原則」が提示され、「ビッグアイデア」を用いてカリキュラムを構造化することが原則の一つとして位置づけられている。



①教科内のデザイン原則
1．Focus（焦点化）
2．Rigour（知的挑戦）
3．Coherence（一貫性）

②教科横断のデザイン原則
4．Transferability（転移可能性）
子供たちが特定の教科における基盤となる概念やビッグアイディアを理解し、それがどのように他の教科に適用できるかをわかるようにカリキュラムを構造化する
5．Interdisciplinary（教科横断性）
6．Choice（選択肢）

③社会に開かれたデザイン原則
7．Authenticity（真正性）
8．Flexibility（柔軟性）
9．Alignment（整合性）

④過程に関するデザイン原則
10．Engagement（参画）
11．Student Agency（生徒のエージェンシー）
12．Teacher Agency（教員のエージェンシー）

（各国の事例）

ブリティッシュコロンビア州（カナダ）

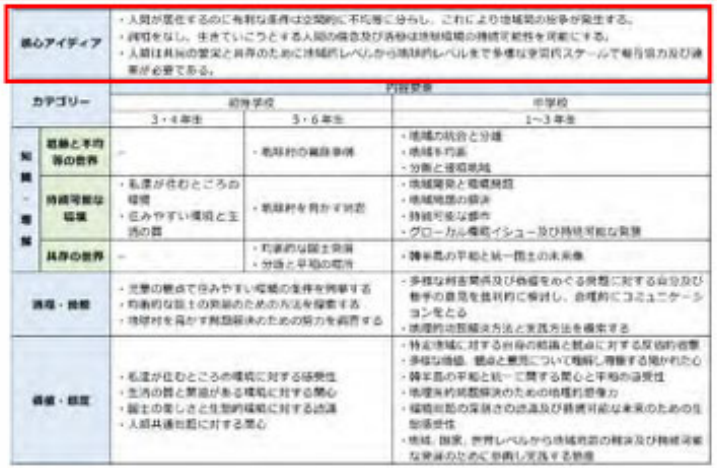
・教科内容の焦点化が行われ、学習分野における理解の中心となる内容を記述したビッグアイデア（専門的知識を理解するための鍵となる概念、原則、理論等）に沿って整理された。（2016年）



【出典】Building Student Success - B.C. Curriculumより仮訳

韓国

・「核心アイデア」を新たに設定して内容体系の枠組みの全面的な見直しを実施。「内容要素」を「知識・理解」「過程・技能」「価値・態度」の3カテゴリーで再構築し、教科固有の思考や探究過程を明示し、核心アイデアを中心に内容要素を関連づけることで、「深みがある学習」の実現を目指している。（2022年）



【出典】今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会（第８回）
国立教育政策研究所提出資料より

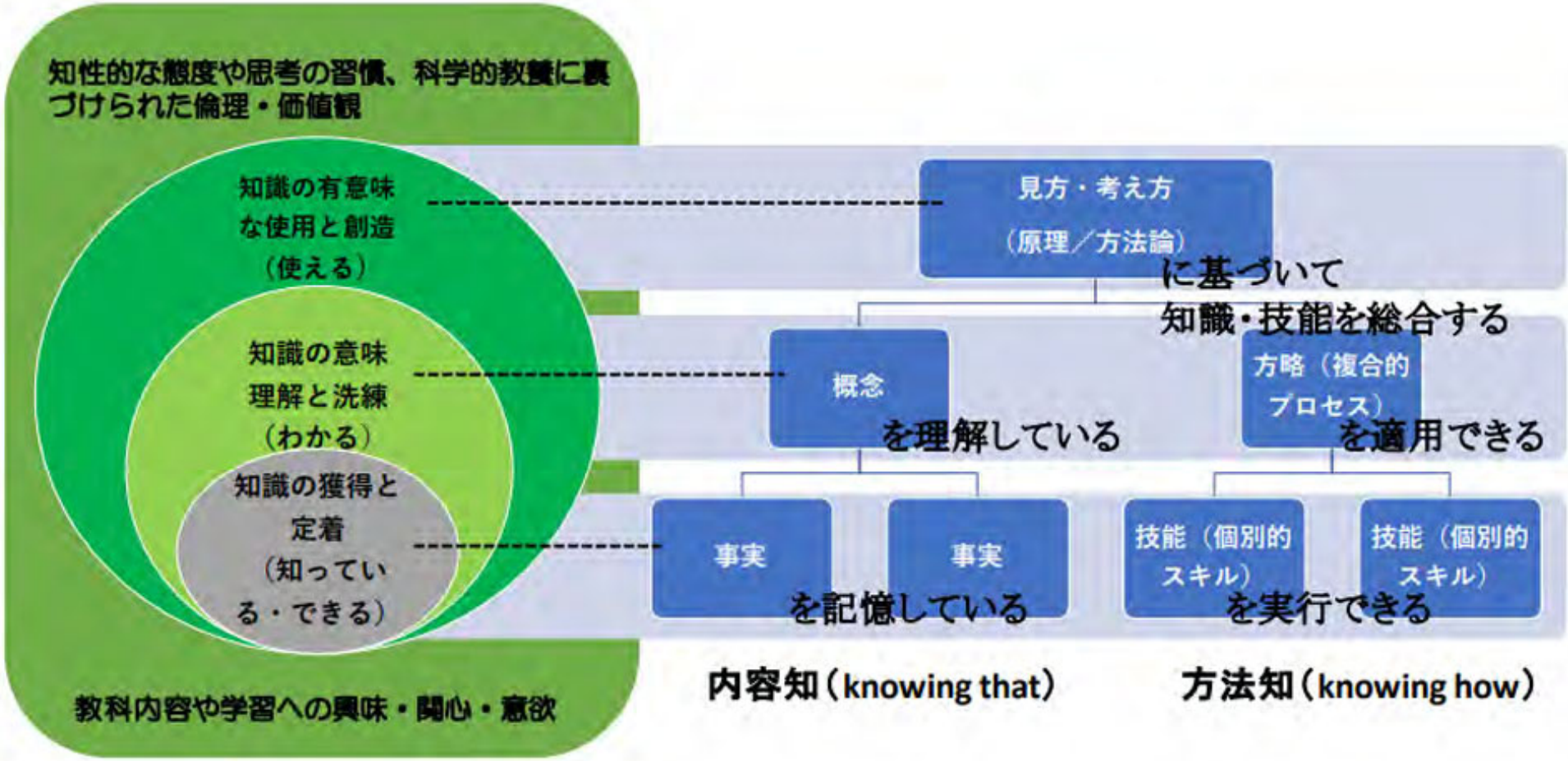
シンガポール

・一部教科（理科(2023年実施)、人格・市民性教育(2021年実施)）において、「ビッグアイデア」に基づき内容整理が行われている。
・理科では、各分野共通の「ビッグアイディア」（多様性・循環・システム・相互作用・エネルギー）の下で学習内容を相互に関連付けた構成となっている。

オーストラリア

・８つの学習領域（教科に相当）全てで、必要不可欠な内容や「核となる概念」に焦点を当てた内容の再構成を実施。これにより、教員が教え児童生徒が学習を期待される内容を示した「学習内容の記載（content descriptions）」の分量が21%削減された。(2022年)

知識の構造



知識の構造を体育、保健で考えると?

【出典】今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会（第12回）
石井英真委員提出資料より

概念的知識の特定が何に役立つか。

児童・生徒にとって

→ 汎用的に応用できる知識を有することで生涯にわたってスポーツを楽しむ資質・能力につながる

→ 主体的な取り組みの可能性が高まる (技のメカニズムなど)

→ 思考が働きやすくなる。

教師にとって

なんのために、なにを、どのように教えるのかが明確になる

→ 体育の見方・考え方に迫る指導となる

→ 主体的・対話的で深い学びの実現に迫る授業につながる

→ 自身の指導すべきアプローチに幅がでる

概念知
教師の視点

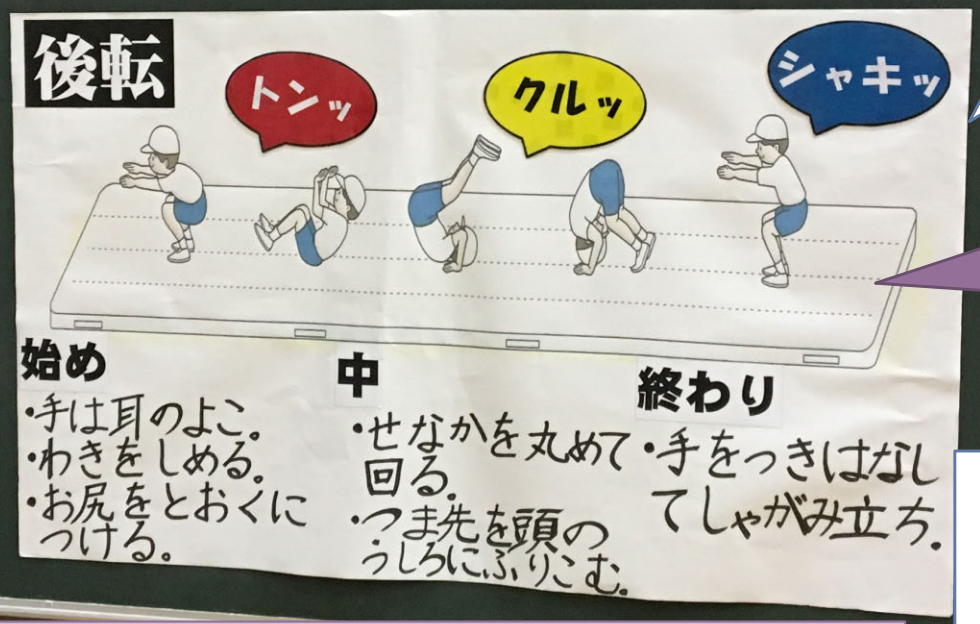
マット運動
回転系
接点技群

順次接地
回転力

何を教えるのか(概念)
どのように(方法)
何が身に付くのか(具体)

課題を選ぶ、見つける

具体知を、局面(準備、主要、終末)で示した例



教師の声掛け
局面・全体の流れ

練習方法を選ぶ、見つける

方法知(改善の方法)
順次接地・・ゆりかご
回転力・・斜めの場、サポートでの加速、突き放し
局面修正・・相互観察、ICT

「ゆりかご」で「背中が滑らかについているか」を確認してみよう

領域名（５・６年跳び箱運動）

解説の例示：何を
[切り返し系の技の例示]
〇安定した開脚跳び
・助走から踏み切り・着手・着地まで，一連の動きとしてスムーズに跳び越えること。
〇大きな開脚跳び
・助走から両足で強く踏み切り，脚を左右に開いて着手し，強く突き放して跳び越えること。
〇かかえ込み跳び
・助走から両足で踏み切って着手し，脚を抱え込んで跳び越しをすること。
[回転系の技の例示]

共通で押さえておくべき要素を取り出す
- 踏みきり
- 着手
- 腰高姿勢
- 着地
- 突きはなし

方法知

けんけん・グージャンプ

またぎ降り

手型の活用

具体知

「グー」の時に両足で踏み切ろう

前のめりになって

跳び箱の半分より向こうに手を着いてみよう

コアコンセプト（概念知）：何のため

〇切り返し跳びグループ（跳び箱上に支持して回転方向を切り替えて跳び越す）
・踏み切りから上体を前方に振り込みながら着手する動き方，突き放しによって直立体勢に戻して着地するための動き方　⇒前方に振り込みながらの着手
突き放しによる復元

〇回転跳びグループ（跳び箱上を回転しながら跳び越す）
・着手後も前方に回転するための勢いを生み出す踏み切りの動き方，突き放しによって空中に飛び出して着地するための動き方。　⇒勢いのよい踏み切り
空間での身のこなし

学年(中学校第1学年及び第2学年) 領域(球技)　態度の内容(公正) 解説の表記

フェアなプレイを守ろうとするとは，球技は，チームや個人で勝敗を競う特徴があるため，規定の範囲で勝敗を競うといったルールや相手を尊重するといったマナーを守ったり，相手や仲間の健闘を認めたりして，フェアなプレイに取り組もうとすることを示している。そのため，**ルールやマナーを守ることで球技独自の楽しさや安全性，公平性が確保されること，また，相手や仲間のすばらしいプレイやフェアなプレイを認めることで，互いを尊重する気持ちが強くなること**を理解し，取り組めるようにする。

概念知(なぜ)

〇ルールやマナーを守る
　安全性，公平性が確保される
〇健闘を称える、良いプレーを認める
　互いを尊重する気持ちが強くなる

具体知(何を知る)

〇ルールを知る
　簡易化されたゲームのルールを知る
　・サーブは、センターラインより後ろから打つこと
　・スパイクは、山なりで打つこと
〇健闘を称える
　・勝敗に関わらず、試合後は気持ちよく挨拶をすること
〇良いプレーを認める
　・ハイタッチやナイスプレーと声をかける

教師の働きかけ(しようとする意欲)

場面・教材(方法知)

〇ルールを守る
　・簡易化されたルールを学習する機会を設ける
　・ラフプレイが与える影響について話し合う
　・フェアプレイ宣言を取り入れる
　・不公平な結果が出るゲームを体験する
　・自身のプレイを振り返り改善点を明確にする
〇健闘を称える、良いプレーを認める
　・敗者の際に健闘をたたえられた際の感情を伝える
　・相手チームからナイスプレイと声を掛けられた時の感
　　情を記述する
　・今日のフェアプレイ賞を選出する
　・モデルとなる所作をしている生徒を観察させる

発問(思考・判断・表現)

〇全員が安全で公平性が確保されるルールやマナーをチームで挙げてみよう

〇仲間がフェアだなと思うときはどんな時?
　どのようなプレイが不快に感じるのかな?

〇勝敗とは他に、フェアなプレイを称えるための良いアイデアはないだろうか。

バレーボール授業用

主体的に学習に取り組む態度　※加点に変更の可能性あり

	何のため	何を	どのように
○愛好的態度	豊かなスポーツライフを実現するため	する・みる・ささえる 知る楽しみ方	・イベント企画，コーチ ・観戦，応援，インクルーシブスポーツ
○公正	スポーツを守る	賞賛，尊重，尊厳	・フェアプレイ宣言 ・ベストフェアプレー選出
○協力	意欲・気づき・安全	練習相手　アドバイス　補助	・ペア　・トリオ ・バディ・システム
○責任	責任感・義務遂行の向上（社会性）	準・片づけ・役割 進んで引受ける	・ジグソー法 ・ベストマネジメント選出
○参画	市民性（シチズンシップ） 対立解決力	感情に流されず 建設的に意見を伝える	・作戦会議（ルール提示） ・授業ふりかえり発言機会
○共生	・多様な楽しみ方 ・共生社会実現	・ルール修正検討 ・参加しやすい環境 ・相互理解	・アダプテッドゲーム ・インクルーシブスポーツ ・パラ体験会
○健・安	・危険予知・回避能力の向上	・防止（リスク） ・対応（クライシス） 主体（ルール），環境	・起きやすい事例 ・行動指針（アジェンダ） ・ヒヤリハット検討

ゴール型(バスケットボール) の簡易単元構造図　小学校:第5･6学年

学習目標

(技能)	ゴール型では，簡易化されたゲームで，ボール操作やボールを受けるための動きによって，攻防をすること。
(態度)	運動に進んで取り組み，ルールを守り，助け合って運動をしたり，場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
(思・判)	ルールを工夫したり，自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。



授業づくりのポイント

・前学年のゴール型の学習で，技能の内容の習得状況に個人差があることが考えられるため，単元のはじめは，ゲームにつながる運動遊びや中学年の内容も取り扱うようにする。
・ボール操作やボールを持たない動きのポイントは発問により引き出し，確認する時間をとる。
・ルールを選択させる際には，いくつか例示し，実際にやってみて，経験した中から選ばせるようにする。
【ルールの工夫例】
〇ボールの工夫(ドッジボール，空気を抜いたボール)
〇フリーシュートゾーンの設定
〇守りが入れないゾーンの設定
〇ドリブルなし
〇守りの制限(グリッドコート，守りの入れ替わり)

評価

	1	2	3	4	5	6	7	8	
関意態	③	①	④			②		総括的評価	学習カード、観察
思・判			①			②	③		学習カード、観察
技能				①	②		③		観察

学習活動における具体の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
①集団対集団で競い合うための練習やゲームに進んで取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り，友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ③用具の準備や後片付けで，分担された役割を果たそうとしている。 ④運動をする場の危険物を取り除いたり整備したりするとともに，用具の安全に気を配ろうとしている。	①ゴール型（バスケットボール）のゲームの行い方がわかっている。 ②みんながゴール型の楽しさや喜びに触れることができるように，プレーヤーの数，コートの広さ，プレー上の制限，得点の仕方などのルールを選んでいる。 ③効果的な攻め方を知り，チームで作戦を選んでいる。	①近くにいるフリーの味方にパスをすることができる。 ②仲間からボールを受け取ることができる場所に動くことができる。 ③パスを受けてシュートすることができる。

領域・領域の内容

易単元構造図　（中）学校：　1学年　ネット型(バレーボール)　班　メンバー

学習目標
（学習指導要領の内容）

（知識及び技能）	(1) 次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ・ネット型では，ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。
（思考力、判断力、表現力等）	(2) 攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
（学びに向かう力、人間性等）	(3) 球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。

●8時間でつかませたい「めあて・ねらい」のイメージ　(ネット型の楽しさ、他者との関係、思考力などを総合的にどのように発揮できたらよいか)

学習の流れ

1 2 3 4 5 6 7 8

出席確認、健康把握、準備運動

10 20 30 40

整理運動、振り返り、時間外の課題確認

50

評価

知識	①特性		②行い方	②行い方			②行い方	
態度の知識	②健・安				①協力			
技能			①パス	②レシーブ			③準備姿勢	
態度の技能		②健・安				①協力		
思・判・表				①課題発見		③協力の仕方		

指導の工夫

(知識)動きの獲得を通して一層知識の大切さを実感できるようにすることや知識を活用し課題を発見・解決するなどの「思考力，判断力，表現力等」を育む学習につながるよう，汎用性のある知識を精選した上で，知識を基盤とした学習の充実を図ることが大切である。
(技能) 空いた場所への攻撃を中心としたラリーの継続についての学習課題を追究しやすいように，プレイヤーの人数，コートの広さ，用具，プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れ，ボールや用具の操作とボールを持たないときの動きに着目させ，学習に取り組ませることが大切である。
(思判表) 第1学年及び第2学年においては，習得した知識を用いて仲間に課題や出来映えを伝えるなど，生徒が習得した知識を基に解決が可能な課題の提示の仕方を工夫することが大切である。
(態度) 生徒自身が公正，協力，責任，参画，共生の意義や価値を認識し取り組もうとする意欲を高めることが求められることから，意義や価値の理解とその具体的な取り組み方を結び付けて指導することが大切である。また，態度に関する意義や価値については，各領域で繰り返し指導することが大切である。

○男女共習
○軽量バレーボール使用

２年間分の指導内容

知識
- ①特性
- ②行い方

技能
ボール・用具
- ①パス
- ②レシーブ
- ③準備姿勢

思考・判断・表現
- ①課題発見
- ③協力の仕方

主体的
- ①協力
- ②健・安

能ツール

二人組のアップ練習 / サーブ的当てゲーム / ワンバウンドバレーボール / オーバーハンドで相手コートの的当てゲーム / 全て…で空いた場所…ゲー…
手投げのスパイク練習 / スパイクなしのパスゲーム / サーブ位置を選択、二回まで可能とするゲーム / 二人組パスの移動競争
手投げサーブからのゲーム / ルールを生徒が修正したゲーム / 表裏攻撃型にしたスパイクゲーム / 1分間頭上パス

9人制バレーボール / ソフトバレーボール(4対4) / 八の字パス / ジャンプなしでのスパイクミート練習
導入で用いるインディアカ / 二人組パスの移動競争 / ワンバウンドバレーボール(3対3) / チームの継続回数を競う円陣パス

…ツール
…T活用
…態度、…考判断…ツール

ソフトバレーボールボール / 軽量バレーボールボール / バドミントンネット使用 / ネットを高くしてパスのみで返球 / ブラインドバレー用鈴入りのバレーボール
タブレット撮影 / 遅延ソフトによるフォームチェック / 高い位置からのゲーム撮影 / タブレットによる振り返り / タブレットによる見本動画
前衛がアイマスクをした転がしバレーボール / シッティングバレー / ブラインドバレーボール / チームでのフェアプレイ行動宣言 / ヒヤリハット体験の共有と対応策提案
ペア学習によるアドバイスタイム / ジクソー学習による責任分担 / ペアチームによる相互アド… / グッドプレイカードの掲示 / BGM、タイマーなど音による支援
ペア学習によるアドバイスタイム / ジクソー学習による責任分担 / ペアチームによる相互アドバイス / グッドプレイカードの掲示 / BGM、タイマーなど音による支援

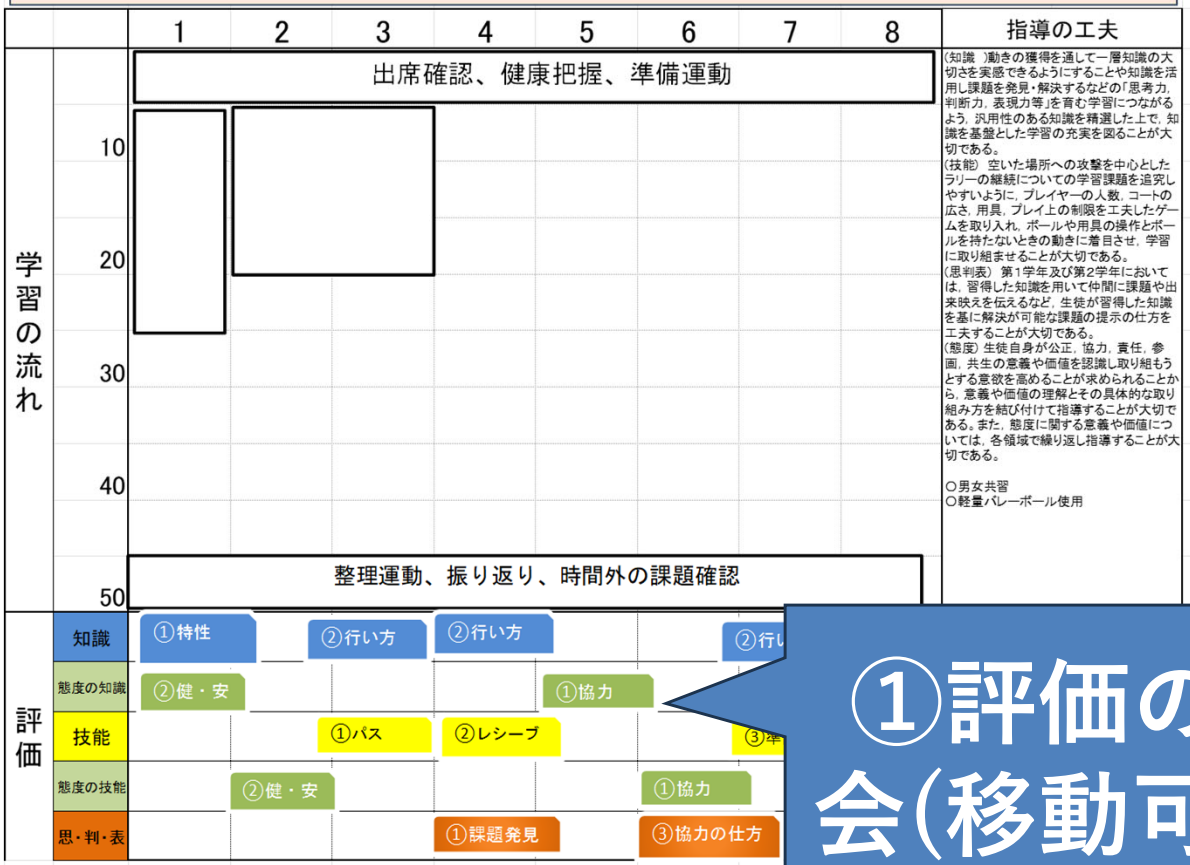
領域・領域の内容

易単元構造図　（中）学校：　1学年　ネット型(バレーボール)　班　メンバー

学習目標
（学習指導要領の内容）

（知識及び技能）	(1) 次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ・ネット型では，ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。
（思考力、判断力、表現力等）	(2) 攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
（学びに向かう力、人間性等）	(3) 球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。

●8時間でつかませたい「めあて・ねらい」のイメージ　(ネット型の楽しさ、他者との関係、思考力などを総合的にどのように発揮できたらよいか)



指導の工夫

(知識)動きの獲得を通して一層知識の大切さを実感できるようにすることや知識を活用し課題を発見・解決するなどの「思考力，判断力，表現力等」を育む学習につながるよう，汎用性のある知識を精選した上で，知識を基盤とした学習の充実を図ることが大切である。
(技能) 空いた場所への攻撃を中心としたラリーの継続についての学習課題を追究しやすいように，プレイヤーの人数，コートの広さ，用具，プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れ，ボールや用具の操作とボールを持たないときの動きに着目させ，学習に取り組ませることが大切である。
(思判表) 第1学年及び第2学年においては，習得した知識を用いて仲間に課題や出来映えを伝えるなど，生徒が習得した知識を基に解決が可能な課題の提示の仕方を工夫することが大切である。
(態度) 生徒自身が公正，協力，責任，参画，共生の意義や価値を認識し取り組もうとする意欲を高めることが求められることから，意義や価値の理解とその具体的な取り組み方を結び付けて指導することが大切である。また，態度に関する意義や価値については，各領域で繰り返し指導することが大切である。

○男女共習
○軽量バレーボール使用

２年間分の指導内容

知識
- ①特性
- ②行い方

技能
ボール・用具
- ①パス
- ②レシーブ
- ③準備姿勢

思考・判断・表現
- ①課題発見
- ③協力の仕方

主体的
- ①協力

能ツール
IT活用
態度、思考判断ツール

二人組のアップ練習 / サーブ的当てゲーム / ワンバウンドバレーボール / オーバーハンドで相手コートの的当てゲーム
手投げのスパイク練習 / スパイクなしのパスゲーム / サーブ位置を選択、二回まで可能とするゲーム / 二人組パスの移動競争
手投げサーブからのゲーム / ルールを生徒が修正したゲーム / 表裏攻撃型にしたスパイクゲーム / 1分間頭上パス

9人制バレーボール / ソフトバレーボール(4対4) / 八の字パス / ジャンプなしでのスパイクミート練習
導入で用いるインディアカ / 二人組パスの移動競争 / ワンバウンドバレーボール(3対3) / チームの継続回数を競う円陣パス

ソフトバレーボールボール / 軽量バレーボールボール / バドミントンネット使用 / ネットを高くしてパスのみで返球 / ブラインドバレー用鈴入りのバレーボール
タブレット撮影 / 遅延ソフトによるフォームチェック / 高い位置からのゲーム撮影 / タブレットによる振り返り / タブレットによる見本動画
前衛がアイマスクをした転がしバレーボール / シッティングバレー / ブラインドバレーボール / チームでのフェアプレイ行動宣言 / ヒヤリハット体験の共有と対応策提案
ペア学習によるアドバイスタイム / ジクソー学習による責任分担 / ペアチームによる相互アドバイス / グッドプレイカードの掲示 / BGM、タイマーなど音による支援
ペア学習によるアドバイスタイム / ジクソー学習による責任分担 / ペアチームによる相互アドバイス / グッドプレイカードの掲示 / BGM、タイマーなど音による支援

①評価の機会(移動可能)

領域・領域の内容

易単元構造図　（中）学校：　1学年　ネット型(バレーボール)　班　メンバー

学習目標
（学習指導要領の内容）

（知識及び技能）	(1) 次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ・ネット型では，ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。
（思考力、判断力、表現力等）	(2) 攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
（学びに向かう力、人間性等）	(3) 球技に積…の話合いに参加しよ…学習を援助しようと…

●8時間でつかませたい「めあて・ねらい」のイメージ　(ネット型の楽…

②技能系の教材

③思考系の教材

④態度系の教材

学習の流れ

	1	2	3	4
10	出席確認、健…			
20				
30				
40				
50	整理運動、振り返り、時間外の課題確認			

（技能）空いた場所への攻撃を中心としたラリーの継続についての学習課題を追究しやすいように，プレイヤーの人数，コートの広さ，用具，プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れ，ボールや用具の操作とボールを持たないときの動きに着目させ，学習…

評価

	1	2	3	4
知識	①特性	②行い方	②行い方	
態度の知識	②健・安			
技能		①パス	②レシーブ	
態度の技能		②健・安		
思・判・表			①課題発見	

２年間分の指導内容

知識
- ①特性
- ②行い方

ボール・用具
- ①パス
- ②レシーブ
- ③準備姿勢

思考・判断・表現
- ①課題発見
- ③協力の仕方

主体的
- ①協力
- ②健・安

能ツール

見ツール

活用

態度、考判断ツール

- 二人組のアップ練習
- サーブ的当てゲーム
- ワンバウンドバレーボール
- オーバーハンドで相手コートの的当てゲーム
- 手投げのスパイク練習
- スパイクなしのパスゲーム
- サーブ位置を選択、二回まで可能とするゲーム
- 二人組パスの移動競争
- 手投げサーブからのゲーム
- ルールを生徒が修正したゲーム
- 表裏攻撃型にしたスパイクゲーム
- 1分間頭上パス
- 9人制バレーボール
- ソフトバレーボール(4対4)
- 八の字パス
- ジャンプなしでのスパイクミート練習
- 導入で用いるインディアカ
- 二人組パスの移動競争
- ワンバウンドバレーボール(3対3)
- チームの継続回数を競う円陣パス
- ソフトバレーボールボール
- 軽量バレーボールボール
- バドミントンネット使用
- ネットを高くしてパスのみで返球
- ブラインドバレー用鈴入りのバレーボール
- タブレット撮影
- 遅延ソフトによるフォームチェック
- 高い位置からのゲーム撮影
- タブレットによる振り返り
- タブレットによる見本動画
- 前衛がアイマスクをした転がしバレーボール
- シッティングバレー
- ブラインドバレーボール
- チームでのフェアプレイ行動宣言
- ヒヤリハット体験の共有と対応策提案
- ペア学習によるアドバイスタイム
- ジクソー学習による責任分担
- ペアチームによる相互アドバイス
- グッドプレイカードの掲示
- BGM、タイマーなど音による支援
- ペア学習によるアドバイスタイム
- ジクソー学習による責任分担
- ペアチームによる相互アドバイス
- グッドプレイカードの掲示
- BGM、タイマーなど音による支援

領域・領域の内容

簡易単元構造図　（中)学校:　　1学年　ネット型(バレーボール)

学習過程を作成

学
(学習指

(1) 次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
ネット型では，ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。

(2) 攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(3) 球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。

(学びに向かう

		1	2	4	5	6	7	8	指導の工夫
学習の流れ		出席確認、健康把握、準備運動							(知識　)動きの獲得を通して一層知識の大切さを実感できるようにすることや知識を活用し課題を発見・解決するなどの「思考力，判断力，表現力等」を育む学習につながるよう，汎用性のある知識を精選した上で，知識を基盤とした学習の充実を図ることが大切である。 (技能) 空いた場所への攻撃を中心としたラリーの継続についての学習課題を追究しやすいように，プレイヤーの人数，コートの広さ，用具，プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れ，ボールや用具の操作とボールを持たないときの動きに着目させ，学習に取り組ませることが大切である。 (思判表) 第1学年及び第2学年においては，習得した知識を用いて仲間に課題や出来映えを伝えるなど，生徒が習得した知識を基に解決が可能な課題の提示の仕方を工夫することが大切である。 (態度) 生徒自身が公正，協力，責任，参画，共生の意義や価値を認識し取り組もうとする意欲を高めることが求められることから，意義や価値の理解とその具体的な取り組み方を結び付けて指導することが大切である。また，態度に関する意義や価値については，各領域で繰り返し指導することが大切である。 〇男女共習 〇軽量バレーボール使用
	10	オリエンテーション ①特性	二人組のアップ (緩いボールのコントロール)	協力することの意義を考えましょう。	仲間のボールをつなぐための次のプレイに備える動きは?	二人組のアップ スパイク動作、サーブ、レシーブ			
	20		仲間につなぐパスの仕方を知ろう ・アンダーハンド、オーバーハント ①パス	課題解決に向けたグループでの練習で、仲間の課題を発見しよう (ICT活用)	サーブやスパイクの勢いをコントロールして仲間につなごう	簡易ルールによるラリー重視のゲーム ・位置自由のアンダーハンドサーブ ・スパイクはやまなり			
	30	ラリーを続ける楽しさを味わおう(ソフトバレー)	・ボールが来る前の反応しやすい準備姿勢は?		簡易ゲームでラリーを続けよう(作戦タイム)				
	40		低いコートで、スパイクなしのワンバンドありの簡易ゲームでラリーを続けよう (軽量ボール)						
	50	整理運動、振り返り、時間外の課題確認							